

## 第30回徳島スリーデーウオーク

【岐阜県関ヶ原宿から醒ヶ井宿の中山道、滋賀県長浜市木之本地蔵院から北国街道と賤ヶ岳・余呉湖、甲良町・西明寺から愛荘町・金剛輪寺、百済寺町・百済寺の湖東三山自然歩道を歩く】

開催日 平成29年5月19日（金）～21日（日）の三日間

### 第30回徳島スリーデーウオークの開催

今回のスリーデーウオークは、一日目は中山道六十九次中の第58宿関ヶ原宿から第61宿醒井宿まで、二日目は北国街道沿いの木之本地蔵院から北国街道の街並みと賤ヶ岳・余呉湖まで、三日目は湖東三山自然歩道のある西明寺・金剛輪寺・百済寺の湖東三山を歩きました。

この三日間は、晴天に恵まれたものの、気温の上昇もあり暑さとの戦いのウオーキングとなりました。三日間とも例年よりも歩く距離が長く、ウオーカーにとっては大変な体験をしたことと思われませんが、歴史のある旧中山道の古道と家並み、今も残る古道沿いの関ヶ原の合戦の遺跡と清水、旧北国街道木之本宿にある羽柴秀吉本陣跡、羽柴秀吉と柴田勝家が戦った古戦場、湖東三山自然歩道を繋ぐ湖東三山へと、古道を巡り、歴史上残る歴史変革の地と新緑に囲まれた古寺を歩き、幾度も体感の出来ることのない、記憶に残るウオーキングでした。

さて、

#### 【一日目】 約14km

1号車は石井町から、2号車は阿南市から、いずれも午前6時の早朝に出発し、途中、多賀サービスエリアで昼食を採り、昼夜問わず行われている名神高速道路補修工事の渋滞にもめげず、古くは天下分け目の「壬申の乱」、「関ヶ原の合戦」の二大合戦のあった関ヶ原宿の関ヶ原駅前に到着して、長時間のバス旅から解放のストレッチを行い、ウオーキングをスタートしました。中山道第58番宿関ヶ原宿の相川家脇本陣跡と宿場町を横に、合戦の遺跡が残る街道沿いを、次いで第59宿今須宿へ、国道21号線と東海道本線を交差しながら、第60宿柏原宿へ、ベンガラで染め上げられた宿場町には、問屋場跡、脇本陣跡、旅籠屋跡、皇女和宮宿泊所跡、造り酒屋跡、川口浩主演の日活映画撮影場所等を見ながら、次は、第61宿醒井宿は、清らかな水が流れることで知られる宿場町で、宿場町の脇を流れる清流（「居醒いさめの清水しみず」を源流とする地蔵川）には、清らかな水流のなか「梅花藻」が群生し可憐な白い花が咲き乱れていました。

この間、中山道のほんの一部でしたが、一里塚が再現されていたり、古い宿場町と楓並木と古くから残る中山道を保存するなど、多彩で豊かな歴史街道を楽しみました。

#### 【二日目】 約9.5km

宿舎の「ホテルルートイン彦根」を出発し、二日目のウオーキング開始場所である、北国街道木之本宿にある木之本地蔵院で出発のストレッチ、木之本は木之本地蔵院の門前町で、羽柴秀吉が「賤ヶ岳の合戦」の本陣を置いたところ。薬の古い看板が残る旧本陣跡を巡って、中山道と違った北国街道の宿場町から山内一豊の妻が名馬を買い求めたとされる牛馬市を抜け、北国街道から賤ヶ岳登山口までの間には、羽柴秀吉の軍師である黒田官兵衛の始祖発祥の地跡と伊香式鳥居と呼ばれ三輪式鳥居と巖島式鳥居の両方を取り入れた鳥居のある伊香具神社で休憩し、賤ヶ岳登山口へと向かった。これまでは、平坦な道であったが、賤ヶ岳登山口からは、歩いて山頂へ向かう方法と、リフトにより山頂途中まで行く

方法の両方を選択して賤ヶ岳山頂へ向かった。

賤ヶ岳付近一帯は、本能寺の変後の織田勢力を二分する、羽柴秀吉と柴田勝家が壮絶に戦った合戦の場で、至る所に戦跡碑や名将の名を記した戦没者の碑が残っている。

山頂は「新雪一賤ヶ岳の大観」として琵琶湖八景の一つに数えられ、当日は、天気もよく南は琵琶湖、北には余呉湖と中央分水嶺・淀川水源の森のある山々が眺望できました。現在は、中央分水嶺・淀川水源の森の余呉トレイルコースの一つになっています。

山頂で昼食後、尾根道から飯ノ浦切り通しを経て余呉湖荘脇登山口へと下り、「鏡池」ともいわれる余呉湖の西岸を天女伝説の残る衣掛柳を經由して、江土登山口のある余呉湖観光館駐車場まで歩きました。

この日の最終は、琵琶湖最湖北から湖西の「さざなみ街道」を南下し、竹生島を眺めながら「長浜城」近くにある、二日目の宿舎「ホテルルートイン彦根」へと向かいました。

### 【三日目】 約10km

長浜城近くの宿舎「長浜ロイヤルホテル」を出発し、一路「湖東三山」ウォーキングへと向かった。

「湖東三山」とは、滋賀県湖東地方の「西明寺・金剛輪寺・百濟寺」の天台宗寺院の総称である。南東にある「永源寺」とともに紅葉の名所として知られています。

自然歩道は、それぞれの3カ寺を横に繋ぐようにあるが、最初は山の中腹を横切り、2カ寺目から3カ寺目までの間は、すぐ横に隣接する名神高速道路下を幾度かくぐり抜け、普通自動車の通行も可能だが、鹿など動物除けの金網が張り巡らされ、金網扉を開け閉めながら、田畑を横切るようになっている。

それぞれの山門から本堂までの参道の階段が長く、階段数も多くあり、ウォーキング開始の「西明寺」ではその参道も苦(?)にならなかったが、3日目と当日の暑さから、2カ寺目では疲れを配慮し、上りは中腹の駐車場までバスで、下りは階段を下って歩き、3カ寺目は最終日の最後のウォーキングか中腹の駐車場までの上りを歩き、本堂までの階段は疲れがありながらもがんばって歩きました。お疲れ様でした。